

耐震偽装事件に何を問うべきか

- 本当の黒幕は誰だ -

主催：耐震工学研究会

後援：(社)日本建築構造技術者協会(JSCA)、東京構造設計事務所協会(ASDO)

日時：2006年3月6日(月)16:00～20:00 会場：日本建築学会 建築会館ホール

主 旨

2005年11月17日に国土交通省より「姉齒建築設計事務所による構造計算書の偽造」が公表された。新聞等では「震度5強で倒壊」する恐れがあるなどといったセンセーショナルな報道がなされ、該当する建物の使用者や住民のみならず一般市民にも動揺が広がった。

しかし、この事件には疑問が多い。そもそも震度5で倒壊とは誰が言い出したのか、その工学的な根拠は何か、国土交通省の発表やメディアの取り上げ方に対する違和感、誰が偽造を最初に発見したのか、民 - 民の関係に公金を投入することの是非は、姉齒元建築士や一貫計算プログラムが事件の核心なのか、等々。

国土交通省は現状よりも厳しい審査制度や資格制度をつくり責任回避をはかることで、事件を收拾するつもりだろう。国民や業界の官依存が強くなることで官僚の存在意義も高くなるに違いない。それでは問題の本質的な解決にはならない。建築にかかわる専門家一人一人が、この事件から何を教訓として学ぶのか、社会や国民に対してどうやって説明していくのか、どうすれば信頼が取り戻せるのか、が問われているのではないか。

本シンポジウムでは、これまで我々は何をしてきたのか？ 何をしてこなかったのか、今後何をすべきなのか、について率直な議論を行いたい。主たる論点は、1)専門家(専門家集団)の責任と倫理、2)耐震性能評価の困難さ、生産体制の複雑性、設計施工一貫・分離、3)社会制度の問題と弊害(法体系、確認制度、資格制度)、4)建築主、事業主、国民の役割と責任などである。

プログラム

- 第一部：16:00～ 主旨説明と耐震偽装事件の現状(高山峯夫：福岡大学)
- 16:20～ 設計事務所は絶滅の危機にある(多田英之：(株)日本免震研究センター)
- 17:05～ 朱鷺メッセ裁判と姉齒事件から見えるもの(渡辺邦夫：(株)構造設計集団)
- 17:50～ 構造技術と法体系のあるべき姿(神田順：東京大学)

休 憩(18:40～19:00)

第二部：討論(パネルディスカッション形式)(19:00～20:00)

パネリスト：多田英之・渡辺邦夫・神田順・高山峯夫(進行)